

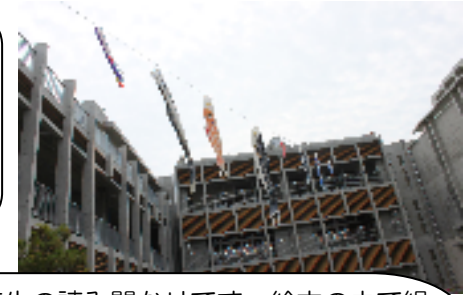
学校だより 「'11まかべ」

第6号

2011（平成23）年5月13日

糸満市立真壁小学校

新しい校庭に鯉のぼりがあがりました（右写真）。校門から児童玄関に向かって歩く際に、少し視線を上げるだけで全児童が鯉のぼりの泳ぐ様を見ることが出来ます。鯉は、川の急流でも上流に向かって力強く泳ぐことが出来るのだそうです。校庭に泳ぐ鯉を見あげることで、「自分もそのような力強さを持つるように」という意欲を高めてくれるといいなと思っています。
各学級で保護者による読み聞かせが始まりました。毎週月曜日の朝に実施する計画です。読み聞かせの効果について、今一度、再確認してみます。



毎週月曜日、朝の読み聞かせスタート！ 5/9～

目で読んで、耳で聞いて…心のアンテナが光る！



1年生の読み聞かせです。どの児童も目を見開いて、真剣に聞いていました。
この時期は自己肯定感や安心感を育む時期です。保護者の声は、お腹の中ですっと聞いていた、とてもなじみのある声です。寄り添ったりスキンシップをする中で、自己肯定感や信頼感が育っていきます。
1年生の頃から本になじんでおくことで本への抵抗がなくなり、本好きな子どもに育っていくことが期待できます。



4年生の読み聞かせです。絵本の中で繰り広げられるストーリーを通して、子どもの想像力が育つと考えています。想像力はその先に起こることを予測したりイメージしたりする力、さらには先を読む力にもつながる大切な心の筋肉とも言えます。
“心の筋肉”であるからには、読めば読むほど想像力が高まる（たくましくなる）こととなります。

2年生の読み聞かせです。児童全員を読み手の周りに集めての読み聞かせでした。大好きな保護者と一緒に、お話を追って行く中で、聞くことや物事に対する集中力が育まれます。
読み聞かせの前に、児童と一緒に簡単なゆび遊びを取り入れていました。簡単だからこそ、安心感と連帯感が生まれ、その後の絵本の世界に没頭出来る雰囲気が出来たのだと思います。15分の読み聞かせですが、貴重な時間だと痛感しました。



5年生の読み聞かせです。5年生になると、長いストーリーや抽象的な思考を必要とする本を読むことが可能になります。ただし、個人差はあります。
登場人物の喜怒哀楽といった心の変化を感じたり、思考の深さを感じたりすることで、脳が活発に働きます。読書や読み聞かせをたくさんこなすことにより、児童の心の成長と抽象的な思考の深まりを促していくと考えています。



3年生の読み聞かせです。3年生になると、読書の分野も広がり、読み手の本選びにも一苦労です。中には、「この本は読んだことがある」という児童もいますが、いい本は繰り返し読んで欲しいと考えているものです。ストーリーの面白さもさることながら、一緒に感じられるスリルや感動を再体験したいという気持ちは強いです。
同じ本でも、読んだり聞いたりするたびに、新しい発見や気づきがあり、児童の想像力も探求力も育っていくと考えています。



6年生の読み聞かせです。6年生は、抽象的な思考や客観的な判断が十分に可能です。「何故、この本を読んでくれるのか…」ということにも興味を持っているものです。その意味では、保護者の考えていることがほぼストレートに伝わると考えていいです。
また、物語の文字を追うことで児童の中の押し入れ（知識）が増え、文字や言葉の習得が早まります。言葉を習得することはそのまま思考が深まることとなります。

【読み聞かせボランティアへ御協力を！】

各学級での読み聞かせは、可能な限りその学級の保護者でやってくださるようお願いをしています。担任や学級世話役から依頼がありました際には、こころよく引き受けてくださると嬉しく思います。